

令和4年度 第1回京田辺市生涯学習推進協議会 会議要旨

議 事

- (1) 京田辺市文化振興計画中間評価事業について
事務局より報告
- (2) 京田辺市野外活動センターに係る運営見直しについて
事務局より報告
- (3) 市民まつり社会教育課ブースでの展示結果について
事務局より報告
- (4) 生涯学習推進協力員制度の見直しについて
資料の概要について、事務局より説明
 - (委 員) 協力員がいない自治会もある。協力員への委嘱や研修会等は行われて
いるか。
 - (事務局) 自治会での協力員等のなり手不足の影響により委嘱ができていない。
また、研修会も令和元年度以降開催されていない。
 - (委 員) 自治会でのなり手不足の解消のため、まちづくり協議会の活用はよい
と思うが、協議会がある地区は実施可能だが、協議会がない地区は、
それが組織されるまでの間のこととも検討する必要がある。
 - (委 員) 協力員の役割自体を整理する必要がある。あまり重い役割を担っても
らうのは難しいのではないか。講座や教室を周知するといった役割で
もよいのではないか。
 - (委 員) 健康村自治会や西八区の公民館では、活発に活動していると聞く。
 - (委 員) 興戸区では、子育てや見守りをしている団体が自主的に生涯学習に関
わる活動もしている。新たに協力員制度を導入する必要はないのでは。
人々が自主的に行動を起こすような雰囲気づくり、地域づくりが必要
だと思う。
 - (委 員) 薩摩川内市では、公民館がいつも開館しており、裁縫など自分の得意な技能
を他の区民に教える仕組みができている。他地区の公民館では、使用
する時のみカギを開けて入り、また閉めて帰るという制度となってい
る。公民館はいつも開放されており、誰でも自由に立ち寄れるよう
にし、地域の異年齢が交流できる状態の方が望ましい。
 - (委 員) 自治会活動が盛んな地域では、生涯学習の取組もそれぞれが自主的に
行っているが、そうでない地域で協力員となってしまったら、様々な
準備を協力員が行わなければならず、その役割が重くなりすぎる。そ
うなると、なり手が更にいなくなってしまうのではないか。
 - (委 員) 自治会でのなり手不足解消のために、まちづくり協議会の活用も必要
だが、一部動き出している地域もあるが、多くの地域ではまだ準備段
階であり、すぐには設立されない。この状況を踏まえて、協力員制度
についてもっと検討していく必要があるのでないか。
 - (事務局) 協力員制度については、第3次生涯学習推進基本計画において見直し
を行うとなった。しかし、なり手不足ということが問題となっている。
今後は、活発な自治会等の状況について調査を行い、いくつか見直し
案を作成して、具体的に検討を進めたい。